



明石市本のまちビジョン(素案)

(原案)

明石市

目次

明石市本のまちビジョンの位置づけ

第一章 明石市本のまちビジョン

- 1 はじめに
- 2 本のまち推進の方向性と大切にしたいこと
- 3 本のまちが目指すイメージ
- 4 本のまちを推進する人や場所
- 5 本のまちを推進する人や場所の連携
- 6 本のまちを推進するために市が取り組むこと

第二章 ビジョン策定の過程

- 1 検討スケジュール
- 2 市民ワークショップの概要
- 3 市民の方等へのヒアリングの概要
- 4 パブリックコメントの概要
- 5 本のまちビジョン検討委員会の概要

明石市本のまちビジョンの位置づけ

当ビジョンは、市の最上位計画である「あかしSDGs推進計画」に紐づくビジョンと位置づけ、「あかしSDGs（前期・後期）戦略計画」に定める「本のまちの推進」の取組について、将来的な「理想の姿」や、より具体的な「取組の方向性」を示すものです。

当ビジョンに定める取組は関係各課の取組やあかし教育プラン、明石市子ども・子育て支援事業計画、あかし障害福祉推進計画、あかしジェンダー平等推進計画、明石文化芸術創生基本計画、明石市生涯学習ビジョン、明石市協働のまちづくり推進条例など他の方針、計画等と関連する部分について整合性を図りながら一体的に推進していきます。

なお、当ビジョンは将来的な社会の変動など必要に応じて改定していく予定です。



第1章

明石市本のまちビジョン

1 はじめに

明石市ではこれまで長い間、公共図書館や学校図書室、公営のブックスポットなど本のある様々な場所で市民の方々が読書に親しめる機会を提供してきました。また、家庭においても本に親しんでいたような取組も実施してきました。

これらの取組の積み重ねの上に立ち、これらの取組のさらなる充実や新たな展開を進めながら、明石の本のまちを推進していきたいと考えています。

本のまちの推進により、本や情報を知る場所や機会を通して子どもから大人まであらゆる世代が活字文化に親しみ、またそこで様々な出会いを楽しみながら対話していくことができるようになります。そしてそれらを通じて多様な価値観に触れることでやさしさのあふれるまちになればと考えています。それが、住んでいるまちを誇りに思うシビックプライドの醸成につながり、様々な人が明石に住みたい、住み続けたいと思えるようになることを目指していきたいと思えます。

これからの明石の本のまちの取組をより発展させていくため、公立図書館や文化施設、学校図書室や子ども夢文庫、私設のブックスポット、そして書店や地元出版社など、本に関わる全ての場所や人々とともに進めていくことで本のまちづくりを推進していきたいと考えています。

このような市全体で進める本のまちの取組を支援していく基盤となる考え方として、明石市本のまちビジョンを策定します。

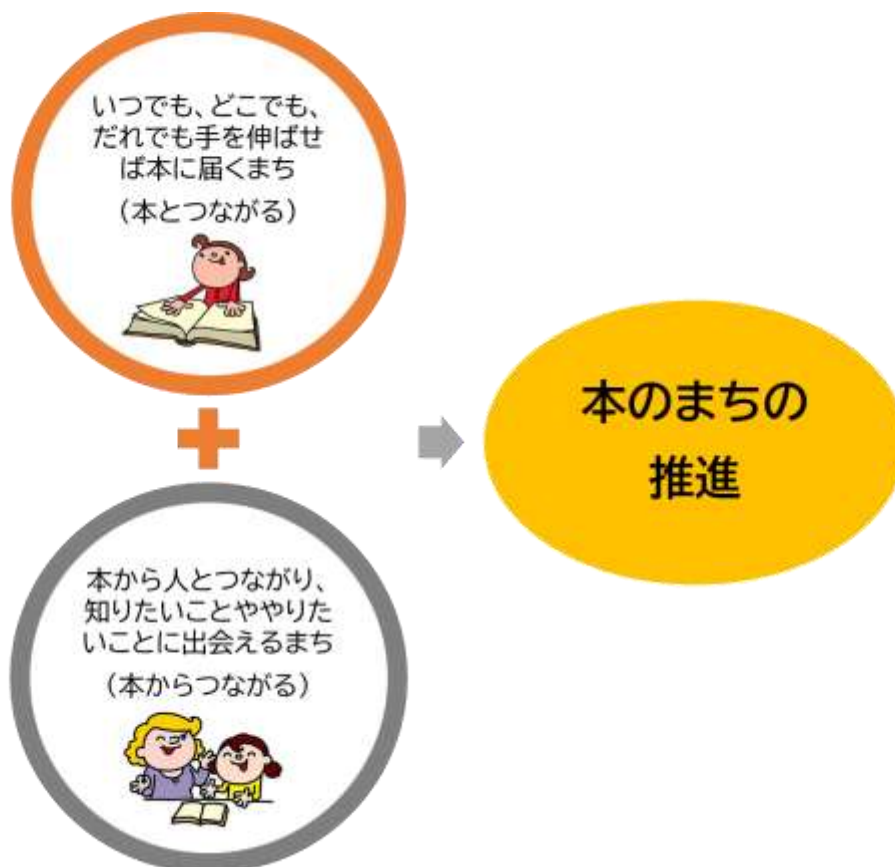


2 本のまち推進の方向性と大切にしたいこと

これまで明石市では、本のまちを推進するため、市民の方々が本に親しめる場所や機会の充実を図ってきました。この取組は「いつでも、どこでも、だれでも手を伸ばせば本に届くまち」を目指したもので、市民の方々が「本とつながる」ためのものでした。明石市は今後もこの取組のさらなる充実を図っていきたくて考えています。

市民の方々が「本とつながる」ことにより、直接的には知識を得たり、学ぶ手法を学んだり、自己を見つめなおしたり、また単純に楽しんだりすることなどが出来ます。このような本から直接得られるもの以外にも本のまちを推進してきたことで、本について人と話し合うことを楽しんだり、図書館で出会った人とあいさつや雑談をしたり、本に関わる活動を始めたり、本に関わる活動者同士がコラボレーションしたり、本を書くなど本に関する自己表現をしたり、など本に関する様々なニーズ・取組が生まれています。

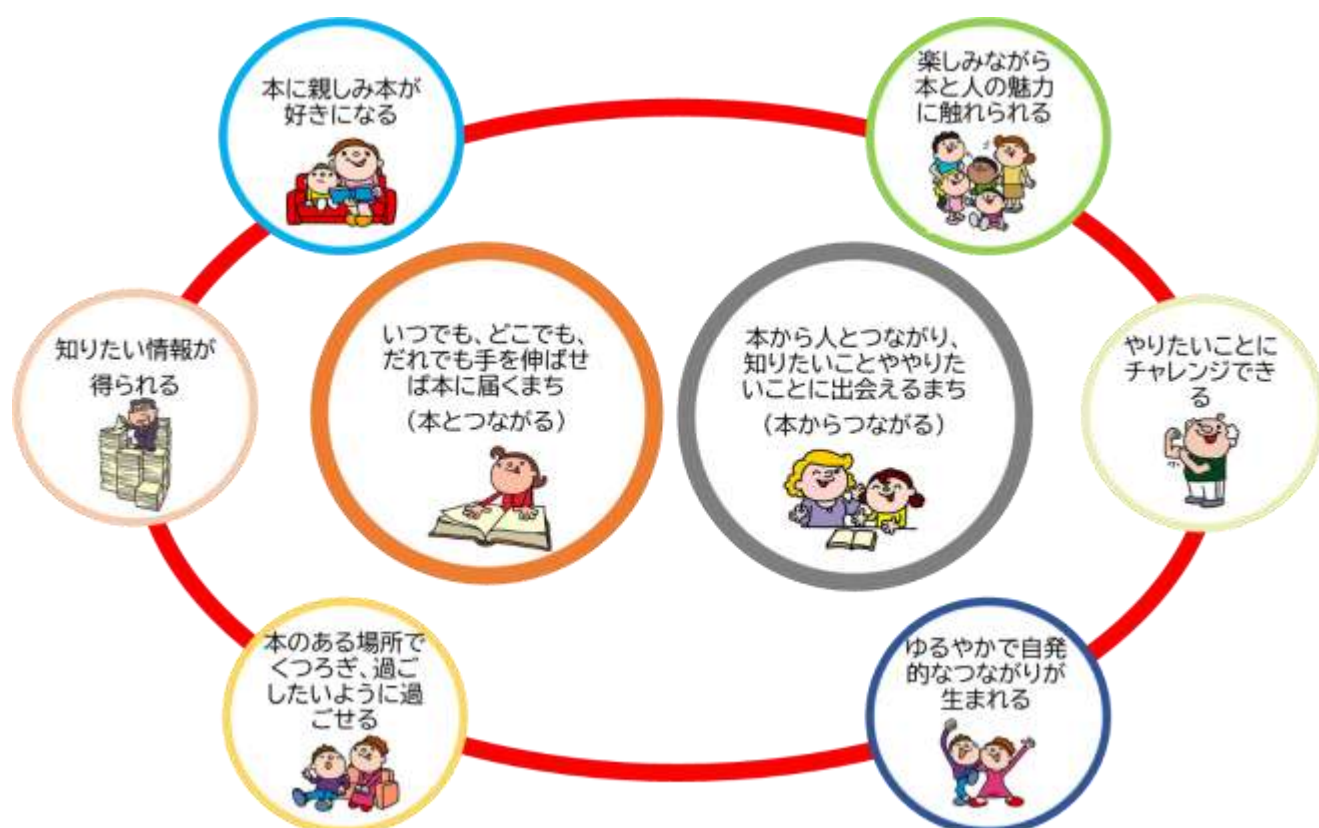
このように、市民の方々が「本とつながる」ことが出来た後のニーズ・取組への支援も進めていく必要があると考えています。つまり、私たちは市民の方々が「本からつながる」取組、「本から人とつながり、知りたいことややりたいことに出会えるまち」を目指し、関わる方々の支援を行っていきたくて考えています。市はそれぞれの方々のやり方を尊重しつつ、これらの支援を実施していきたくて考えています。



このように明石市では大きく、「本とつながる」「本からつながる」という方向性をもって本のまちを推進したいと考えていますが、その取組にあたっては以下のような本のまちのイメージに近づくことを意識したいと考えています。

これらは明石市が思い描くイメージですが、本に関わる全ての場所や人々に広がっていくことにも期待しています。

- ① 本に親しみ本が好きになる
- ② 楽しみながら本と人の魅力に触れられる
- ③ 知りたい情報が得られる
- ④ 本のある場所でくつろぎ、過ごしたいように過ごせる
- ⑤ ゆるやかで自発的なつながりが生まれる
- ⑥ やりたいことにチャレンジできる



明石市はそれぞれの目指すイメージについて以下のように考えています。

目指すイメージ	概要
① 本に親しみ本が好きになる	年代や住んでいる場所、障害の有無等に関係なく、あらゆる人が本に触れられ、本に親しむことが出来ればと考えています。また、子どもたちや普段あまり本を読まない人が本に親しむきっかけとなる取組が広がることで、より多くの人に本を好きになって貰いたいと思っています。
② 楽しみながら本と人の魅力に触れられる	市民の方々が、本のある場所で過ごしたり、イベントに参加したりしながら、それぞれにとっての楽しみが見つかると思っています。その中で、手に取った本や出会った人、自分自身、住んでいるまちの魅力に触れ、新たな発見や学びを得ることが出来ればと考えています。
③ 知りたい情報が得られる	市民の方々が、書籍、新聞、雑誌、マンガ、デジタルコンテンツ等、多様な媒体から情報を得られ、また情報の探し方や活用方法についてのサポートが受けられるようになればと考えています。さらに、本のまちづくりに関する情報も、様々な場所で得られるようになればと思います。
④ 本のある場所でくつろぎ、過ごしたいように過ごせる	一人で静かに過ごしたい人、人の気配がある中で過ごしたい人、人と交流したりつながりたい人等、市民の方々が本のある場所で、それぞれが望む多様な過ごし方ができるようになればと考えています。
⑤ ゆるやかで自発的なつながりが生まれる	市民の方々が本のある場所や活動の中で、ゆるやかに自然な形でつながっていけるようになればと考えています。そのつながりにより、生きがいに結び付くものや社会課題の解決につながるような活動などが生まれれば、より理想的ではないかと考えています。
⑥ やりたいことにチャレンジできる	市民の方々が本や本のある場所、本のある場所ですべての人を通じて、やりたいことにチャレンジできるようになればと考えています。 本に関する活動をしたい、本を執筆してみたいなど本に関する様々な思いにチャレンジできるようになればと考えます。



3 本のまちが目指すイメージ(全体像)

市内にはたくさんの本のある場所があり、また様々な人や団体を主体として本に関する取組が行われています。これからの本のまち明石では、「本とつながる」「本からつながる」の2つの大きな方向性と6つの大切にしたいことを踏まえて、それらがつながり、さらに取組が広がっていくことを目指します。様々な本のまちづくりに関わる主体が交わっていく状況を表現したものが下のイメージ図です。

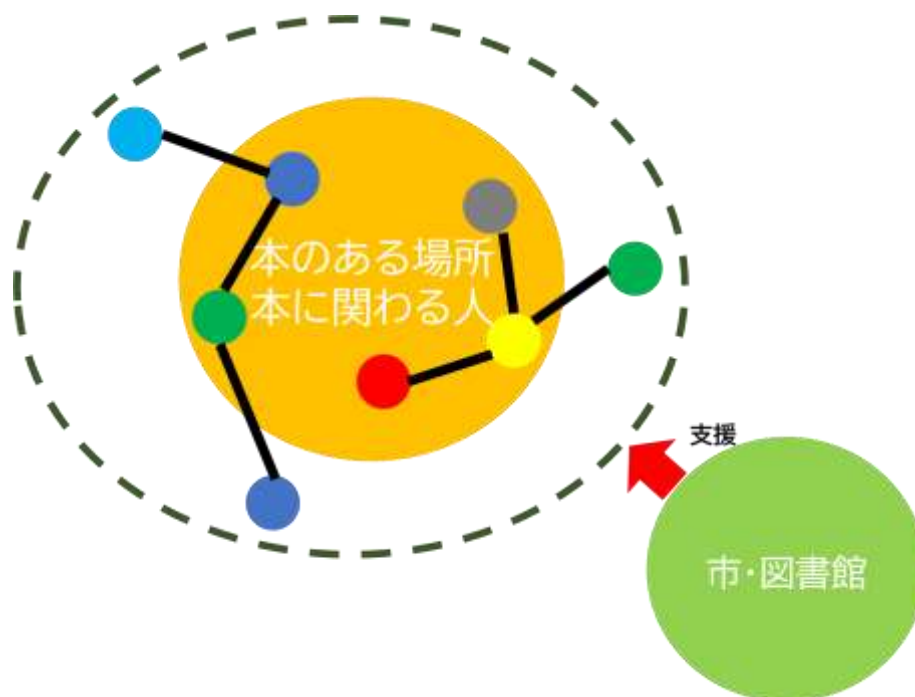
※「リビング＆ライブラリー」って？

…基本的な図書館機能に加えて、誰もが過ごしやすい居場所としての機能、交流や情報交換の場としての機能を持つ図書館を表した言葉です。R7以降に整備される二見図書館や西明石地域交流センター内の図書コーナーは、従来のイメージである「静かな図書館」から離れ、おしゃべりしたり、ゆっくりくつろいだりできる、「リビング＆ライブラリー」をコンセプトにしています。



4 本のまちを推進する人や場所

本のまちづくりに関わる人や本のある場所について、今後期待される役割を整理しました。あらゆる人や場が本のまちづくりの主体となる可能性があり、ここで挙げているものが全てではありません。また、期待される役割についても、あくまで現状で想定される内容を表したものであり、本を通じてそれぞれの主体が変わることで、新たな取組や関係性が創出されることが期待されます。市や市立図書館は、そうした将来における広がり視野に入れた上で、本のまちづくりを支援し、推進していきます。



主体	期待する役割
市民（個人、団体）	本のまち明石の主役は市民であり、本のまちづくりは、市民の暮らしが本を通じてより豊かになることを目的にしている。市民一人一人が本そのものや本に関する活動に興味を持ち、やがては本のまちづくりに主体的に参加することが期待され、市はそのための環境づくりや支援を行う。
ブックスポット	<ul style="list-style-type: none"> 身近な「まちなか図書館」として、地域の居場所や対話・交流の場となる。 運営主体や地域特性、ターゲットに応じて、すでに多様なコンセプトのスポットが存在する。特に私設や民間のスポットについては、公営では実現しにくい分野に特化した取組も期待される。



主体	期待する役割
<p>こども図書室 子育て支援センター</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵本やおもちゃを通じた親子のコミュニケーションの場。 ・ 図書館より気軽に訪れられ、子どもを安心して遊ばせられる。子育てに関する相談も受け付けており、子育て世帯を支える施設。
<p>こども夢文庫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域にある子どもたちと親子の居場所。こども図書室・子育て支援センターと合わせて、子育て支援を支える場所。 ・ 絵本や児童書、イベントを通じた親子や多世代間の交流の場づくりを行う。 ・ 運営主体は地縁団体やボランティアグループであり、子育て世帯にとって地域とのつながりを持てる場となる。
<p>学校図書館</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学生にとって最も身近な本のある場所として、学習センター・情報センター・読書センター機能を備える。 ・ 書籍に限らず漫画や新聞、雑誌、デジタルコンテンツ等、子どもたちが様々な情報媒体に触れられる場として機能する。その際には紙媒体とデジタルのそれぞれの長所を生かし適切なバランスを図る。 ・ 地域住民が図書サポーターになる等、地域・保護者と学校との接点の一つとなる。 ・ 学校図書館の開館時間・日数を工夫し、子どもたちが本に触れる機会が充実する。また、教室に居づらい子どもにとっての居場所としてもより機能する。
<p>文化施設 (天文科学館・文化博物館など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的な見地や資源を活かして、市立図書館や学校図書館との連携（コラボ展示やイベント）を行い、生涯学習の推進とシビックプライドの醸成につなげる。 ・ 各施設に設置したブックスポットとなるスペースにおいて、子ども向けに絵本や漫画等も活用しながら専門分野について分かりやすく、かつ楽しく伝える。
<p>市内の書店 書店組合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰もが訪れられる本のある場所であり、活字文化を支える役割を持つ。 ・ 本の展示や出版社その他とのコラボなど、図書館と違った視点で実施できる。 ・ 書籍の購入先として本のまちを支える。 ・ 新たな書店の立ち上げや、「ひとり書店」のような取組がはじまるきっかけになることも期待される。
<p>市内の出版社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書店と同じく、市内の活字文化を支える役割を持つ。 ・ 明石の魅力ある人材や資源を発掘・発信し、シビックプライドを醸成する。 ・ 自作小説の出版、「ひとり出版社」のような取組、新たな市内出版社の立ち上げ等、表現や発信に関する活動の推進においても大きな役割が期待できる。

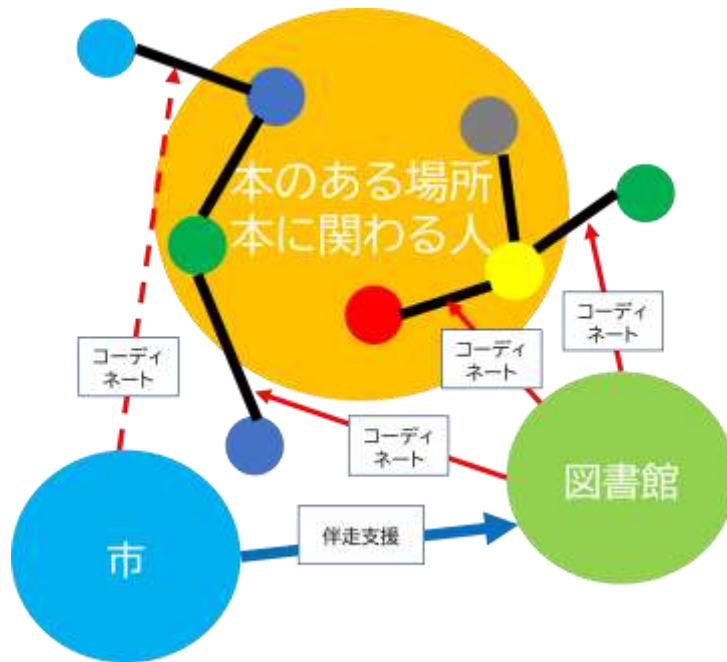


主体	期待する役割
二見図書館 西明石地域交流センター (仮) 大久保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に身近な図書館として地域の人、モノ、コトをつなぐ。 ・ リビング＆ライブラリーをコンセプトに、本を通じた対話や交流を促進する。 ・ 地域にまつわる情報の収集、提供によりシビックプライドを醸成する。
あかし市民図書館 西部図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊富な蔵書と高度なレファレンス、レフェラル機能を活かしたサポート機能を持つ。特に団体貸出の利用促進を通じて、本という資源の有効活用につなげる。 ・ 個人や団体、ブックスポットの活動支援とコーディネートを行い、時には一緒に取り組む。 ・ 明石にまつわる情報の収集、提供によりシビックプライドを醸成する。 ・ 書籍に限らず漫画や新聞、雑誌、電子書籍、デジタルコンテンツ等、市民が様々な情報媒体に触れられる場として機能する。その際には紙媒体とデジタルのそれぞれの長所を生かし適切なバランスを図る。 ・ 本を読む、情報を得るだけでなく、表現や発信に関する活動の推進も行う。 ・ 場づくりやイベントを通じた、対話や交流の促進も行う。
市（本のまち担当）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本のまちづくりに関わりたい人にとっての窓口であり、本のまちに関する情報を集約し、広く発信する役割も持つ。 ・ 市立図書館の運営管理と図書館司書に対する相談対応・伴走支援を行う。 ・ 図書館とともに、本のまちに関わる主体の活動を支援、時には一緒に取り組む。 ・ 市立図書館や各主体、他部署などの調整役となる。 ・ 必要に応じて新しいことを企画し、立ち上げ、形にする等、本のまちづくりを主導する役割も持つ。



5 本のまちを推進する人や場所の連携

本のまち明石において今後期待される、本のまちづくりの主体同士のつながりや連携についてまとめました。これからの本のまち明石では、市立図書館が様々な人や活動、学校、企業、資源をつなぐコーディネート役を担っていきます。その結果として、ここで示すことができていない新たなつながりや連携が生まれる可能性があると考えています。



主体	連携で期待すること
ブックスポット	<ul style="list-style-type: none"> 市立図書館がブックスポットのハブ的機能を果たす。 (運営の相談、団体貸出利用、図書館がオーナー同士の交流の場に) ブックスポット同士の交流が活発化し、新たな取組が創出される。 公的施設や企業などとの連携事例が生まれる。
こども図書室 子育て支援センター	<ul style="list-style-type: none"> 市立図書館やブックスポットとの情報共有を通じて、子育て世帯が図書館や地域のことを知るきっかけ作りになる。 図書館ボランティアがこども図書室で読み聞かせを実施する等、交流を通じて双方の取組の充実や利用の拡大を図る。

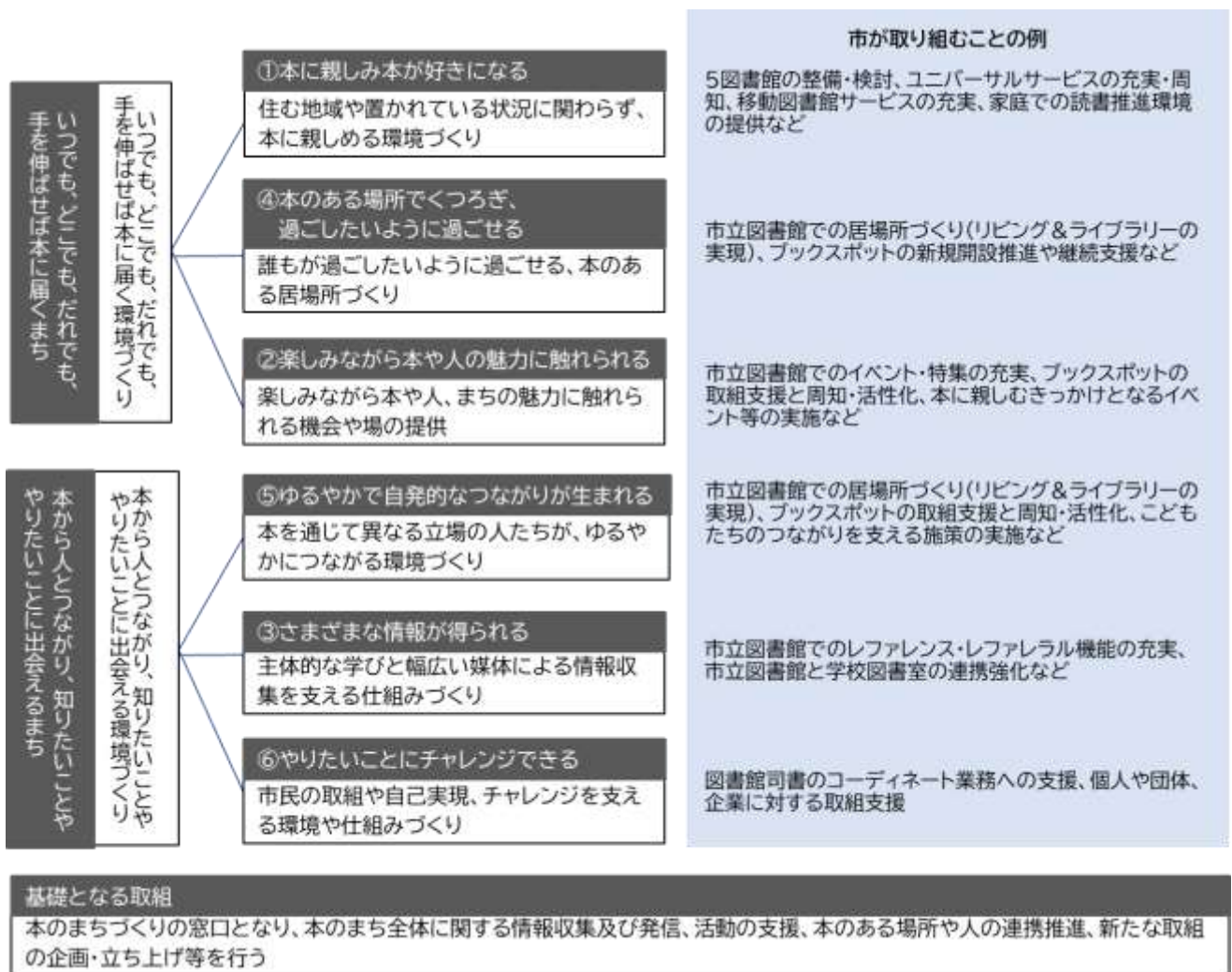


主体	連携で期待すること
学校図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市立図書館の団体貸出や移動図書館出張等により情報量アップを図る。 ・ 市立図書館とのコラボイベントや図書館ボランティア派遣等を通じて、学校図書館に関わる人が多様化し、子どもたちが様々な人と交流することができる。
文化施設 (天文科学館・文化博物館 など)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市立図書館とのコラボ展示・イベント等がより充実する。 ・ 施設内のブックスポットに置く本について、蔵書・選書面で市立図書館の団体貸出や相談機能を積極的に利用する。 ・ 他のブックスポットや学校図書館との連携事例が生まれる。
市内の書店 書店組合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書店員と司書の交流機会をつくる等、図書館との連携をより充実させる。ポップ制作講座など、民間のノウハウを活かしつつ市民が参加できる取組も。 ・ 市の事業やブックスポットの図書購入先となることで、本のまちづくりの充実と書店事業の持続・発展を図る。
市内の出版社 市内の企業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民間のノウハウをいかしたコラボ展示や講座を図書館やブックスポット、学校図書館などで実施する。(出版社なら書き方講座、写真講座、自費出版講座等)
二見図書館 西明石地域交流センター (仮) 大久保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館司書が、利用者だけでなく地域の人や活動、学校、企業、資源などをコーディネートし、本のまちづくりを推進する。 ・ 市民図書館や西部図書館に対する積極的な相談や情報共有、相互交流を通じて双方の活性化を図る。
あかし市民図書館 西部図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館司書が、利用者だけでなく明石全体の人や活動、学校、企業、資源などをコーディネートし、本のまちづくりの中核を担う。 ・ 豊富な蔵書やより高度な専門性を活かして他の図書館をサポートしつつ、情報共有・相互交流を通じて双方の活性化を図る。



6 本のまちを推進するために市が取り組むこと

明石市も、本のまちづくりに関わる主体の一つです。「2 本のまち推進の方向性と大切にしたいこと」に基づいて本のまちづくりを進めていくために、6 つの「大切にしたいこと」をもとに、既存事業も含めた市の取組を整理しました。本のまちづくりの広がりに合わせて、市も新しいことに積極的にチャレンジし、柔軟な姿勢で本のまちづくり推進に取り組んでいきます。



第2章

ビジョン策定の過程

1 検討スケジュール

市民の方々や有識者等のご意見を伺いながら本ビジョンを策定しました。

2024年6月	市議会総務常任委員会に本のまちビジョンの検討開始を報告
7月	市民の方への意見聴取を実施（ブックスポット運営者、書店、ボランティア活動者、ボランティアコーディネーター）
8月	第1回本のまちビジョン検討委員会を開催 市民の方への意見聴取を実施（明石市障害当事者等団体連絡協議会）
9月	市民ワークショップを開催
10月	関係者への意見聴取を実施（あかし市民図書館司書／学校司書） 市民の方への意見聴取を実施（子育て支援センター来館者） 第2回本のまちビジョン検討委員会を開催
11月	第3回本のまちビジョン検討委員会を開催
12月	市議会総務常任委員会に本のまちビジョンの検討状況を報告
2025年1月	
2月	
3月	



2 市民ワークショップの概要

市民ワークショップを開催し、本ビジョン策定に向けて、これからの「本のまち明石」がどのようになっていけば良いのかについて語り合いました。

①本のまち明石で「こんなことをやってみたい／参加したい」「必要な／あるといいな」と思うこと、②これからの本のまち明石はこんなまちというテーマについてグループに分かれて話し合いました。

(1)実施概要

開催日時	対象者	場所	参加者数
2024年9月8日（日） 午前10時～12時	本に関する活動に携わる方や本が好きな方、内容に関心のある方など、どなたでも	ウイズあかし フリースペース	30名





(2)結果概要

①本のまち明石で「こんなことをやってみたい／参加したい」「必要だな／あるといいな」と思うこと

《誰でも本に手が届く環境》

■図書館の利便性

- ・本の返却場所の増設
- ・公的な施設だけでも、本の返却場所を共通に
- ・コミセンで本の返却だけでなく、図書館の本の貸出も
- ・駅で本が返せたらいいな・・・
- ・駅で本を受け取り、返却できたら便利
- ・まち協とかコミセンで借りれたらいいなあ
- ・子育て支援センターと、絵本データを連携してほしい
- ・図書館までの送迎
- ・子どもの一時預かり
- ・冷蔵ロッカーサービス
- ・気軽に開催できるイベントスペース
- ・コンシェルジュをおく
- ・不足のない学習コーナー(150→300)

■本のある場所の充実

- ・本がある場所と読む場所・空間をもっと増やす
- ・学校の近くにブックスポット(こども向け)
- ・本がもっと近くにほしい(清水)
- ・全校区に小学生が自力で行ける本のある居場所
- ・図書館から遠い地域にブックスポットや図書室があったらよい(移動図書館は時間制限あり)
- ・高丘(大久保)エリアにブックスポットや本の場所が少ないので増えてほしい
- ・高丘地区に地域の図書室やブックスポットを(図書館から遠い地域)
- ・小学校コミセン 毎日子どもに開放
- ・市立図書館地域館(大久保地区)
- ・市立図書館地域館(西明石地区)

■移動図書館の活用

- ・子どもたちの下校時間に合わせた移動図書館(気軽に行けるように)
- ・移動図書館が家の近くに来てほしい
- ・明石公園に移動図書館を読んで、読み聞かせタイム(放課後／未就学児向け)

■ユニバーサル

- ・読書バリアフリーに関する講習会
- ・手話で絵本の読み聞かせ
- ・市民図書館のユニバーサルルームを多様な障害者が利用できるようになるといい
- ・文字が大きい本(ご年配の方が読めるように)
- ・ブックスポットでデジ図書を置いてほしい

■本の充実

- ・保育所絵本の充実
- ・子どもがひまになる時間に読める本を学校の玄関に
- ・若い人が本に親しむために漫画コーナーを設置してはどうか(今外国では漫画ブーム)
- ・良い本やロングセラーがなくならないようにしてほしい
- ・もうすぐレベルの高い洋書を学校においてほしい
- ・漫画や電子書籍にも市民権がほしい!
(※これらも読書の対象という認識が根付いてほしい)

《人とつながる/交流》

■つながる機会づくり

- ・コミュニティ
- ・様々な人が集う楽しいイベント
- ・ブックカフェ(本をキーワードに会話するルール)
- ・年齢を問わない交流の場
- ・老人から、子どもたちと一緒に交流しながら本を読んだり話し合う場を持ちたい
- ・1冊の本をみんなで話し合いたい
- ・お話会(読書会)本を通して人とつながる
- ・年代別(子ども・青年・大人)読書会
- ・いろいろな立場の人の本の紹介
- ・編み物カフェを図書館に
- ・ボードゲーム交流会

■つながるための場所

- ・図書館が居場所になる(心地よい場)
- ・図書館が交流・出会いの場 公民館との融合
- ・高齢者も小さい子も集まれる(おしゃべりできる)場所
- ・おしゃべりスペース
- ・図書館にフィーカ(お茶をする)エリアを作る(図書館)
- ・カフェスペース おしゃべりOK

《本のある場所の活性化や連携》

■ブックスポットの活用

- ・ブックスポットスタンプラリー
- ・ブックスポットでビブリオトーク(本の紹介)
- ・くすのん文庫(魚住のこども夢文庫)に平日午後もっと子どもたちが来るとよい

■学校図書館との連携など

- ・学校図書館の活性化
- ・学校図書館の地域開放(放課後や長期休み)
- ・学校図書館選手権
- ・1校1人司書がいてほしい/毎日いてほしい
- ・学校図書館が自習室に使えるといいな
- ・学校図書館に本を貸してほしい
- ・学校図書館でおはなし会

■こんな場所/スペースがあればいいな

- ・だれでも気軽に立ち寄れるブックスポット
- ・リアル古書店
- ・まちなかで古本カフェ 公園とか
- ・24時間BOOK BAR(ブックバー)
- ・本屋に座って過ごせるスペースを作る
- ・海を見ながら本を読む
- ・こたつやロフトがある

■本の循環

- ・本の交換会
- ・不要になった図書の交換会、持ち寄り会
- ・FreeBook(だれでも置いて持っていける本棚)

《本に親しむ機会づくり》

■誰もが本に親しむ

- ・読書を純粋に楽しんでいい(読書=勉強ではない)という意識
- ・本の楽しさを知らない人を知ってもらいたい
- ・大人のためのおはなし会(ストーリーテリング)
- ・今は図書館だけが、老人会などで紙芝居したい
- ・介護施設での読み聞かせ(紙芝居/えほん/手遊び)
- ・お年寄り多いのに本に触れる機会少なそう...
- ・本を10,000冊読破したい(今は8,000冊なので)

■子どもに本の楽しさを伝える

- ・小学生、未就学児に本の手触り、電子書籍でなく“本”で読む楽しさを知ってほしい
- ・下校時間に合わせた図書タイム
- ・全小学校での本読み聞かせタイム 各学校で読む人がいなければ是非行きたい
- ・兄弟姉妹での読み聞かせ(小学校、幼、保)
- ・小学生のうちに本に親しむ為、始業前に1冊読む習慣をつくる
- ・中学生でも遅くない、本の読み聞かせで本を好きになってもらう
- ・小学校で読み聞かせや紙芝居を通して本を好きになってもらう
- ・こども食堂などで読み聞かせをしたい
- ・両親共稼ぎ・シングルマザーの子ども→斉登校前に地域の方と学校図書館で朝読書・読み聞かせ
- ・読み聞かせ(家庭向き)

■本に関連したイベント

- ・ブックフェス(大きなイベント)
- ・明石公園で読み聞かせイベント
- ・明石公園とかでブックフェア
- ・子どもの読み聞かせイベント
- ・文化博物館で読み聞かせイベント(文化博物館は敷居が高い・暗い・入りづらいなどのイメージあるので)
- ・明石の小学生が選ぶ本総選挙
- ・読書感想文大賞(魚住地域で)
- ・ビブリオバトルもっと開催
- ・ビブリオシアター 図書館で上演
- ・パネルシアター
- ・好きなこと(食べ歩き)×図書館・本・ワークショップ
- ・絵本に出てくるお菓子づくり
- ・「本」をテーマにしたアナログゲーム会 例:みんなで本を持ち寄って
- ・本のラジオ局放送(子ども/おとな)
- ・本の業者を招くイベント

《学びや情報を得る》

■本を通して学ぶ

- ・図書館で夏休み子ども科学あそび教室(体験して本にもつなげる)
- ・朗読習いたい
- ・本の修理講座
- ・明石で本にまつわる神社(菅原道真)とか
- ・文章教室

■知りたい情報にアクセスできる

- ・専門書の朗読・音声
- ・本⇒検索(例:編み物の本→編み物教室)
- ・専門書解説交流会
- ・育児相談 兼 読書サポート

■市からの情報発信

- ・本に関する研修会などの情報をもっと積極的に発信してほしい
- ・色々な年代の人に対して異なる形で今の取組を伝える
- ・「本のまち明石」の情報紙、情報サイト
- ・図書館の使い方を広く知ってもらいたい
- ・情報データの公開と共有
- ・明石まちなかブックスポットマップの設置場所の啓発 このマップをたくさんの人に見てもらいたい
- ・図書館の利用方法がたくさんあることを知ってもらう(例:勉強、子どもの居場所)

《本のまちを支える人の活性化》

■ボランティア

- ・読み聞かせサークル/ボランティアが市内のあちこちに
- ・ブックパパ/ブックお兄さん
- ・ボランティアスタッフ(緑のおじさんのような)(緑のおじさん=スクールガード、シニアボランティア)
- ・読み聞かせの講習会
- ・読み聞かせボランティアの学習会や交流会
- ・小学校図書ボランティアの交流会・研修会
- ・読み聞かせの講習会がもっとあるとよい
- ・図書ボランティアの交流会・研修会
- ・「はとの会」として読み聞かせをしたい(「はとの会」=ボランティアグループ)

■創り手

- ・小・中学生向けクリエイターコンクール
- ・クリエイター支援WEBベース
- ・クリエイターの支援



②これからの本のまち明石はこんなまち

●誰でも本に手が届く

- ・市立図書館から遠い地域の人が徒歩で行けるスポット(学校図書館など)
- ・ブックスポットへのアクセスのしやすさを高める
- ・本へのアクセスの地域差をなくす(学校図書館の活用)
- ・ユニバーサルルームを視覚障害者だけでなく、多様なハンデを持つ人が使えるように
- ・本のまちビジョン検討委員会に視覚障害当事者として参加したい

●コミュニティ/場づくり

- ・高齢者から子どもまで、本を通して交流する場
- ・図書館やブックスポットが、人を支えたりつなげたりできる場に
- ・本があるだけでなく、読むための居場所がある
- ・居場所・コミュニティづくり

●本がある場所の利便性やモノの充実

- ・各スポットの選書(人気優先だけでは残らない良書も出てくる。誰が選書するかも重要)
- ・幼・保・小・中のモノ(本)・ヒトの充実
- ・本(図書館)利用の利便性を高めたい(駅で返却、子ども預かりなど)
- ・まちなかに返却不要の本棚があるといい(不要な本の流通)
- ・利便性/快適さ

●ブックスポットのあり方など

- ・各ブックスポットでテーマを絞ったり特化させて、公共施設との違いをつくる
- ・移動図書館とブックスポットの連携やコラボなど

●本を通じて楽しむ

- ・おしゃべりから始まる可能性(編み物、お茶など)楽しい気持ちになる
- ・勉強のためでなく、楽しいから話す、伝えたくなる(※本を楽しむことで交流が生まれる)
- ・楽しい図書館づくり、フィーリングを大切に
- ・盛り上がり おしゃべり解禁
- ・リアルな本の良さ
- ・本という世界の入口をもっと広げよう(ゲーム、マンガなど)
- ・読み聞かせ、スタンプラリー、公園でのイベント
- ・海+本(海を見ながら読書するなど、明石らしさを大切にする)

●情報発信

- ・本に関わる取り組み・情報の発信
- ・図書館サービスについて、できることを集約してみんなにももっと知ってもら
- ・公共図書館ももっと行きたくくなるような工夫が大事(広報、活用方法)

●仕組みづくり

- ・コアとなる図書館(5カ所)が情報や人をつなぐ役割を担う
- ・図書館司書がコーディネーターとしての役割を担う
(人や場所同士をつなげる、利用者の話を聞いて求める情報や活動につなげるなど)
- ・図書ボランティアの交流や研修
- ・読み聞かせなどを「やりたい人」と「やってほしい人」をつなぐ仕組みをつくる



3 市民の方等へのヒアリングの概要

ワークショップ以外でも様々な方から意見を頂くために、活動の取組状況や感じる課題、本のまちに期待することなどについて市民の方々や関係者にヒアリングを実施しました。

<p>ブックスポット：ふくやま病院（西新町駅前）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 立ち上げ時のクラウドファンディングで繋がった人たちとの活動を再開させ、取組の活性化を図りたい。 ● 図書の再整備を行いたい。例えば書店と連携し、図書内容を検討するなどの取組も検討したい。 ● 他の病院でも取組が広がるように働きかけたい。 ● 人とのつながりが希薄になっているという問題を感じる。本は社会とつながるきっかけになる可能性がある。本のテーマによって集まったり話し合ったりなど本によって人とつながるような形になれば良い。 ● 本を読まない人でもそのテーマに沿って話し合ったりすることもできる。本からつながる緩やかなコミュニティが形成されるようになれば良い。
<p>ブックスポット：行こうよ♪みんなの本棚へ（大久保町西島）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ブックスポットについては、助成金など何らかの支援がないと継続が難しい。 ● ブックスポットの認知向上が必要。まずどのようなものなのかを知って貰う必要がある。 ● そのうえで、本の冊数の情報だけでなく、どのような本があるのかまでわかるような情報提供ができるようになれば来訪者も増えるのではないか。
<p>ブックスポット：あかしのよみば（西明石）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 新しい人へのアプローチが難しいがクチコミにより徐々に利用者を広げたい。 ● ブックスポットという活動自体を知らない人が多い。市は、ブックスポットが100か所を超えた、とカトピックス的な出来事があればこまめに発信してほしい。 ● 活動者同士の交流や図書館とブックスポットとの連携が進めば良い。 ● 明石のいろいろな人のオススメ本を紹介するような取組があっても良いのではないか。
<p>ブックスポット：シェア本棚明石（魚住町西岡）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● クリエイターの応援をしたい。地域を盛り上げるために本を書いたり、絵を描いたりするようなクリエイターを育てることも必要。 ● 現在の取組をビジネスモデルとして確立し市内各所への展開を目指したい。



<p>ブックスポット／夢文庫：魚住こども夢文庫（魚住小学校）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学生を中心とした利用層となるため午前の利用者が少ないことが課題。幼稚園生の親の認知度が低かったので、ここへの訴求を行ったことで午前の利用数が向上した。 ● 保育所が年少でも預かるようになったこともあり、市内の夢文庫全般の利用者数が減っている。 ● ブックスポット数が多いがその存在が知られていない。認知の向上が必要。
<p>図書ボランティア：おはなし隊ブックママ135°（中崎小学校）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 若い人たちも活動に参加しているが、担い手の面で不安。ただ、必要な人たちが出来る範囲でやってくれると思うので、あまり気負わずにやっていく。 ● 昔は図書館でボランティアの勉強会があったが今はない。そのような取組も必要かと思う。
<p>ボランティアリーダー：中脇健児氏</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 図書館で個人のコミュニティを促進するよりは、例えば図書館と社協や図書館と地域団体、図書館とNPOなどの連携を通じて団体間の連携が生まれるような形になるのが良いと考える。 ● 現在の活動の中でパラソル付の本が運べる屋台を作成して地域に出向き、様々な場所で小さな場を作れるような仕掛けが出来ないか検討している。そのようなアウトリーチが出来ればヤングケアラーの発見など福祉課題の解決のきっかけになるようなことも出来るのではないかと考えている。 ● 本×教育や本×福祉、本×にぎわいづくりなど、本を介するコミュニティの形成により、市の課題解決のきっかけになるような取組が出来ると考えている。
<p>商業者：ジュンク堂書店（パピオス明石）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 図書館との連携は現状の取組以外は行えていない。本を扱うという土台は共通しているが、営利・非営利という目的の違いもあるので連携がなかなか進まない部分がある。 ● 活字離れを感じている。もっと活字に触れて欲しい。こどものころから読書に親しむ環境を作るのが有効と考える。このあたりの取組について期待したい。
<p>商業者：巖松堂書店（大久保駅前）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 個人書店の売上は減少傾向にあり、市内の個人書店数も減少している。 ● 本のまちとして全国に目立つような取組を期待したい。例えば、独自の文学賞をつくり、大賞者は市内の出版社から出版できる、といった取組が実施できるとより盛り上げていくことが出来るのではないか。 ● 保育絵本土講座の取組を保育士等以外にも対象を広げれば良いのではないか。



<p>あすく（明石市障害当事者等団体連絡協議会）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 図書館について、無料給水スポットの設置や喫茶スペースの拡充、雑誌の充実、返却ポストの数拡充、司書の人数増加（人対人だと検索機よりスムーズに必要な情報に辿り着ける）を図って欲しい。 ● 本のまちについて、以下のような取組があると良い。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 駅のコンコース広場に自由に本を置ける／持ち帰りできるスポットがあるといい ➢ 駅の中などに小さな読書スポット ➢ 明石ならではの「時の記念日」などに図書カード配布 ➢ 図書館で貸出スタンプカード（貯めたら何か特典）
<p>こども図書室（子育て支援センター）利用者</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● こども図書室は、子どもを安心して遊ばせられる場所であり、絵本選びのポイントなどスタッフに尋ねられる。また、手遊びなどのイベントがあるので訪れるきっかけになる。イベントや貸出期限などがアプリで確認できるとよい。 ● 図書館については小さい子ども連れ（ベビーカー）では大久保から電車で行くのが大変。大久保に図書館が出来るのが楽しみ。 ● 図書館に子どもを安心して遊ばせられたり、子どもを連れてゆっくりくつろげる場所が増えるとよい。 ● 子育てについてなど、ちょっとした相談ができる人がいると利用する人が増えそう。
<p>学校司書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校図書館から各クラスに貸し出す学級文庫は小・中とも子どもたちに好評。 ● 始業前 10 分程度の「朝読書」は、子どもたちの集中力などに好影響だが、最近では学習に充てられることが増えている（授業数不足、英語の教科化）。 ● 2 校兼務や配置換えの頻度から、学校や子どもたちとの関係性構築が十分でないと感じる。 ● もっと図書委員と一緒に利用促進に向けて取り組みたいが、図書委員会（会議）と勤務日が合わないなど、なかなかうまくいかない。 ● 図書館司書がおすすめ本を紹介しに来てくれたり、学級ごとに定期的に貸出したりしてもらえると、学校図書館に無い本を子どもたちに読ませてあげられる。



<p>図書館司書（あかし市民図書館・西部図書館）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 従来の図書館像にプラスアルファした図書館を目指して取り組んでいるが、うまくPRできていないと感じる。 ● 学校や地域との連携についても、図書館側からアプローチすることがほとんどで、「図書館で何ができるか」が知られていない。広く周知していく必要がある。 ● 登録ボランティアである「市民による夢の図書館プロジェクト（D チーム）」では、ボランティアが主体的に話し合い、やりたいことを企画化している。 ● ブックスポットの運営者とは実際に話をする機会がなく、どういった人が運営しどういった困りごとがあるかも分かっていない。 ● ブックスポットの蔵書を図書館の団体貸出で賄うことで、本の活用・循環につながり、ブックスポット助成金ももっと他の部分に充てられるのではないか。
------------------------------	--



4 パブリックコメントの概要

本のまちビジョン検討委員会、市民ワークショップ、市民の方等へのヒアリングを経て策定したビジョン素案についてパブリックコメントを実施しました。



5 本のまちビジョン検討委員会の概要

市民の方々や有識者等のご意見を伺いながら本ビジョンを策定しました。

(1)検討委員

会長	吉成 信夫	本のまちづくり推進アドバイザー (元 みんなの森 ぎふメディアコスモス 総合プロデューサー)
委員	木原 明美	二見西まちづくり協議会事務局長／まちなかブックスポット運営者
委員	佐伯 亮太	播磨町まちづくりアドバイザー／佐用町縮充戦略アドバイザー
委員	嶋田 学	京都橘大学文学部歴史遺産学科 教授
委員	瀬尾 真理子	フリーランスライター・編集者
委員	平賀 研也	日本大学芸術学部/桃山学院大学 非常勤講師
委員	横山 鈴音	大学生（令和3年度あかしSDGs推進審議会委員、小学6年生時ビブリオバトル@あかし優勝）

(2)実施概要

	開催日	内容
第1回	2024年8月6日	本のまち明石の現状と課題について
第2回	2024年10月24日	本のまちビジョン骨子案について
第3回	2024年11月19日	本のまちビジョン素案について
第4回		

(3)結果概要

	項目	主なご意見
第1回	ビジョンの位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> 「あかしSDGs前期戦略計画」に紐づく 「本のまちづくり」=「豊かな心を育む文化芸術の推進」に位置づけ 本のまちが目指す先（つながりや居場所づくり）を考えると、他の分野にも波及する可能性



第1回	重視したい価値観	<ul style="list-style-type: none"> ● 価値をどうつくるか ● 市民がどう参画するか ● インクルーシブ（いつでもどこでもだれでも） ● 具体的な明石の暮らしに根付いた視点
	検討の切り口	<ul style="list-style-type: none"> ● 「本のまち明石」イメージ図の解像度を上げる ● 人の暮らしを起点に議論したい ● 世代ごとに柱を設定する ● 特定の視点から本のある場所を分析
	市立図書館の役割	<ul style="list-style-type: none"> ● 人と人をつなぐコーディネート ● 来館者の思いを引き出し活動につなげる ● 行政情報や地域情報の閲覧機能
	仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報交換・情報発信 ● ボランティアの連携や横断的な活動を支える
	市民の参画	<ul style="list-style-type: none"> ● 「本のまち」に市民がどう関わるか ● 「自分は本のまちに関わった」と思ってくれる市民を増やしたい
	本のある居場所や交流の場	<ul style="list-style-type: none"> ● 出合いや交流のある図書館 ● 1人でも許容する居場所としての図書館 ● 本を通じて語り合える場づくり
	場所や人の連携	<ul style="list-style-type: none"> ● ボランティアや司書などの横のつながり ● 1人の生活者から見た機能的な連携 ● 学校図書館との連携（子どもが本に触れるきっかけ、情報教育、デジタル教育など） ● 文化博物館や天文科学館などとの連携
第2回		

